

特集 3 歯周病とアルツハイマー病

自分の歯を残し咀嚼機能を維持することが、認知機能を維持する上で重要である。歯を失う最大の原因である歯周病と、認知機能や認知症との関連性が示され、特に、歯周病原細菌*Porphyromonas gingivalis*がアルツハイマー病（AD）の病態形成に関わることが明らかになりつつある。
本稿では、歯周病と認知機能および認知症の関連性、特に、ADとの関連性について解説する。

キーワード

歯の喪失, アルツハイマー病 (AD),
Porphyromonas gingivalis, gingipain,
菌血症, 脳小血管病



まつした けん じ
松下 健二

国立長寿医療研究センター研究所
口腔疾患研究部 部長

語句解説

対 特集
談 1

特集
2

特集
3

特集
4

特集
5

特集
6

話題の
検査

ホット・
World News

最新
トピックス

徒然なる
ままに。